

外国人児童生徒等受入れフローチャート

- ◎入学・転編入学後すぐに生活支援や日本語指導を始めましょう。
- ◎外国人児童生徒等は「2つ以上の言語をもつ、可能性のある子ども」です。
- ◎外国人児童生徒等の存在は、全ての子どもにとって成長のチャンスとなります。



受入れのためのチームをつくりましょう (第3章1 p.14~)

- チームを中心に、全ての教職員で取り組む体制づくりをしましょう。
- メンバー：管理職、学年主任（学年主担当）、学級担任、教務（時間割担当）等
- チーム会議を定期的を開催しましょう。



受入れ（入学・転編入学）の準備をしましょう (第3章3 p.22~)

- 入学・転編入学に必要な書類を準備しましょう。
- 教職員や在籍する児童生徒へ説明し、支援・協力体制づくりをしましょう。
- 子ども多文化共生サポーター等（「母語と日本語が話せる支援者」を以下「母語支援者」と記載）の派遣の手続きをしましょう。



保護者との面接を実施しましょう (第3章4 p.24~)

面接の準備をしましょう

- 保護者が日本語での説明を理解できない場合は、子ども多文化共生サポーターや多言語相談員、ICTを活用しましょう。
- 転編入学に必要な書類や学校説明に使用する写真、絵、図を準備しましょう。

面接を通して支援等に必要な情報を収集しましょう

- わかりやすい日本語で、丁寧な面接を行いましょう。
- 母国での生活や教育等について把握しましょう。
 - ・家庭の状況 ・日本に来た経緯 ・文化や生活習慣 ・宗教
 - ・母国の教育制度 ・学習の習得状況 ・健康状態 ・配慮が必要な事項
 - ・本人の性格や、好きなこと、得意なこと、苦手なこと 等



チーム会議を開催し、支援を検討しましょう（第3章1 p.14～）

- 把握した情報をチームで共有し、どんな支援や指導が必要か検討しましょう。
- （個別の）指導計画を立て、見通しをもった指導や評価を行いましょう。
- 取り出し・入り込みによる指導や、日本語指導等のための時間割編成（特別の教育課程等）を検討しましょう。
- 配慮が必要な事項（健康・給食・宗教等）について調整しましょう。

全ての教職員で支援を行いましょう（第3章5 p.30～）

登校初日、あたたかく迎えましょう

- 外国人児童生徒等が安心して登校できる雰囲気づくりに配慮しましょう。
- 日本語がわからない場合は「サバイバル日本語」（p.47）からはじめましょう。

全ての教職員で支援を行いましょう

- 学級担任のみが支援するのではなく、全ての教職員で情報共有しながら支援しましょう。
- 子ども多文化共生サポーター等と連携し、心の安定を図りましょう。（第5章）
- 地域や保護者の理解と協力を得ましょう。

多文化共生の心を育む学級づくり・学校づくりに取り組みましょう（第3章5 p.30）

- 外国人児童生徒等の母語・母文化を大切に、「違い」を「違い」として認め合う心を育みましょう。当該学級のみではなく、学校全体で取り組みましょう。
- 外国人児童生徒等の自尊感情を高め、安心して学校生活を送ることができるよう継続して支援しましょう。

日本語指導・教科指導（第4章 p.41～）

- 日本語の習得状況を把握しましょう。
- 日本語の習得状況に応じ、指導内容や指導方法を工夫し、日本語指導をしましょう（取り出しや入り込みによる指導）。
- 在籍学級の進捗を確認しながら、取り出しによる教科等の指導を行いましょう。

自己実現に向けた支援を継続しましょう（第4章3 p.62）

- 将来の希望を実現するために、進路を見据えた指導や支援を行いましょう。
- 母国の文化や言語、民族の歴史等について学習する機会を設けましょう。
- 保護者や外部関係機関と連携しましょう。